

令和 8 年度自己評価表(中間)						江田島市立鹿川小学校	
中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値	目標値及び実績値		改善策
				令和 7 年度	令和 8 年度		
【確かな学力】 児童の学びに向かう力を育成し、学力の向上を図る。	基礎的・基本的な知識及び技能の定着	校内で重点指導内容を設定し、期間を定めて重点的に取り組む。重点指導内容とドリルタイムの学習を関連させ、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	単元テスト（国語・算数）【知識・技能】の平均到達度	国語 83. 2% 算数 85. 1%	目標	国語 80%以上 算数 80%以上	1 学期は、国語・算数ともに目標値を上回った。児童の実態をもとに重点指導内容を把握し、ドリルタイム等で補充してきた成果であると考える。また、合格証テストに向けて、事前及び事後に基礎的・基本的な内容の定着を図る取組を行ったことも有効であったと考える。今後も、全体指導と共に、支援が必要な児童に対しては個に応じた指導を継続する等、職員間で連携を取りながら組織的な取組を推進する。
	思考力・判断力・表現力の向上	キーワードに印を付ける等、文章の正しい読み取り方を全教科で指導し、身に付けさせる。また、考えを表現する場を意図的に設定する。	単元テスト（国語・算数）【思考・判断・表現力】の平均到達度	国語 84. 5% 算数 75. 2%	目標	国語 75%以上 算数 75%以上	1 学期は、国語・算数ともに目標値を上回った。これは、文章の正しい読み取り方を全教科で指導することを意識した成果であると考える。また、読書活動の取組が成果につながっていると考える。朝の時間及び給食の準備時間等、集中して読書をする児童が増えている。今後も文章の正しい読み取り方を全教科で指導するとともに、活字に親しませる取組を継続していく。
	学びに向かう力の育成	授業で得た知識及び技能や、思考したこと等を振り返りとして書くことができるよう指導する。	・児童アンケートの肯定的評価の割合 ・教師アンケートの記述分析	—	目標	児童 80%以上	各学級で振り返りの記述に取り組み、目標値を上回った。しかし、教師アンケートには、次の学びにつながる振り返りになりにくい児童が一定数見られることが課題としてあった。そのため、板書や掲示物、授業の進め方等の工夫をしたり、個別支援を行ったりしている。今後も、児童の学びに向かう力を高めることができるよう、継続的に授業改善及び振り返りの書き方に関する指導を行う。
【豊かな心】 児童の豊かな心を育成する。	自己肯定感の育成	適切な児童理解と肯定的な評価を行い、児童が「自分にはよいところがある」と考えられるようにする。	児童アンケートの肯定的評価の割合	肯定的評価 88%	目標	肯定的評価 90%以上	昨年度より肯定的評価の割合が大幅に増え、100%の維持または割合増加と、どの学級においても自己肯定感の育成を図ることができた。今後は、全校で取り組んでいる「ありがとうの木」も活用しながら、全校児童の自己肯定感が高まるよう取組の更なる充実を図る。
	社会性の育成	教職員自身が見本となる行動をし、児童に「気持ちのよい挨拶をする」「時間を守る」「一生懸命掃除をする」習慣を身に付けさせる。	児童アンケートの肯定的評価の割合	挨拶 96% 時間 95% 掃除 87%	目標	肯定的評価 90%以上	児童アンケートの肯定的評価の割合は、全ての項目で目標値を上回った。特に、縦割り班掃除では、高学年のよい姿を下学年が見て学ぶことができている。今後は、教師が高学年のよい姿を掃除の反省会で評価するなどして価値づけ、良い習慣を維持していく。
【健やかな体】 児童の体力の向上を図る。	体力・運動能力の向上	体育科の授業や業間運動で筋力や柔軟性を高める運動を取り入れ、「長座体前屈」と「握力」に関する体力・運動能力の向上を図る。	体力テスト結果の全国平均値を上回る割合	長座体前屈 55% 握力 17%	目標	全国平均値を上回る割合 60%以上	握力は昨年度よりも向上したが、長座体前屈、握力ともに目標値に至っていない。今後は、全学年で体育の授業や朝の会等で柔軟性や握力を高める運動を行う。また、全校児童が記録向上を目指す掲示や測定できる場所を用意し、児童が主体的に記録に挑戦できる環境を整備する。
	基本的生活習慣の定着	生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調べを行う。(早寝、早起き、朝ごはん)	生活カードによる達成率	早寝 82% 早起き 77% 朝食 96%	目標	早寝 75% 早起き 75% 朝食 90%	生活カードの達成率は、早寝及び早起きが目標値を上回った。課題としては、メディア使用時間の長い児童ほど就寝・起床時刻が遅くなり、朝食の欠食につながることがあげられた。課題改善に向けて、2 学期の生活カードはメディア使用時間の目安を示すとともに、守るよう指導する。また、各学年の実態に即した保健指導を行うとともに、保健だよりを通して保護者への啓発も行う。
【信頼される学校】 信頼される学校づくりを推進する。	学校満足度の向上	安全・安心な学校づくりを推進するとともに、地域とともにある学校を目指す。	学校満足度 ・学校は安全管理・危機管理に配慮している ・情報提供…学校だよりやHP 等で子どもの様子がよくわかる	安全・危機管理 98% 情報提供 96%	目標	肯定的評価 90%以上	安全・危機管理、情報提供ともに目標値を上回った。安全管理については、正門や校舎内の扉等の開閉を確実に行った。また、怪我及び熱中症防止に向け、保健安全部を中心に放送で児童に安全な遊び方を呼び掛けることにも取り組んだ。今後も取組を継続し、安全・安心な学校づくりを推進する。情報提供については、保護者及び地域の方にタイムリーに児童の様子を知ってもらえるよう、学校だよりの内容を充実させると共に、各学級において学級通信を月一回以上発行する。
	学校における働き方改革の推進	業務改善を図るとともに、時間外勤務が 45 時間以内になるよう、意識して校務に取り組む。	・時間外勤務が 45 時間以内になるよう意識して校務に取り組んでいる教職員の割合 ・児童と向き合う時間が確保されていると感じる割合	— 児童と向き合う時間の確保 100%	目標	肯定的評価 85%以上	全職員が学校における働き方改革の趣旨について共通認識をもち、時間外勤務を縮減しようとして校務に取り組んでおり、目標値を上回った。今後も、全職員が児童と向き合う時間が確保されていると感じられるよう、企画委員会で定期的に個々の時間外勤務の状況を確認するとともに改善策を検討し、校務の標準化を図ったり、分掌内で校務を補い合ったりして組織的な改善を図る。
					実績	安全・危機管理 96. 1% 情報提供 92. 3%	
						意識して校務に取り組む 100% 児童と向き合う時間の確保 90. 9%	